

## 2019年度第1回経営協議会議事要旨

日時 2019年6月26日（水） 13:55～16:00

場所 役員会議室

出席者 吉澤 靖之学長、  
氏家 純一委員（学外委員）、遠藤 信博委員（学外委員）、  
瀬下 明委員（学外委員）、福田 誠委員（学外委員）、  
山口 寿一委員（学外委員）、三澤 正文委員（学外委員）、  
山口 武兼委員（学外委員）、  
烏山 一委員（企画・大学改革担当理事）、  
依田 哲也委員（歯学部改革・教育・学生担当理事）、  
渡邊 守委員（産学官連携・研究展開担当理事）、  
田中 雄二郎委員（医療担当理事）、  
片山 純一委員（財務・施設・人事担当理事）

陪席者 大崎 猛監事、春日野 珠恵監事、  
木村 彰方特命副学長（研究・評価担当）、  
田賀 哲也特命副学長（国際担当）、  
後藤 啓二特命副学長  
（法務・コンプライアンス・地域貢献担当）、  
澁谷 浩司副学長（広報担当）、  
永田 勝総務部長、米澤 聡司財務部長、柴田 大施設部長、  
秋葉 泰樹医学部附属病院事務部長、村松 正明総務部次長、  
下田 弘二学長戦略企画課長、荒川 徹総務秘書課長、  
本田 康平人事企画課長、福好 秋徳財務企画課長、  
池田 裕一病院企画課長、上村 七奈統合研究機構事務長

- 議事に先立ち、新たに経営協議会委員となった山口寿一委員及び依田委員から、自己紹介があった。

○ 確認事項

1 2018年度第5回経営協議会議事要旨（案）について

吉澤学長から、2018年度第5回経営協議会議事要旨（案）について、資料1に基づき確認を行い、原案どおり承認された。

○ 審議事項

1 平成30事業年度に係る業務の実績報告（案）について

木村特命副学長から、平成30事業年度に係る業務の実績報告（案）について、資料2-1及び資料2-2に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。なお、文部科学省へ提出するまでの最終的な取扱いについて、議長に一任することとした。

遠藤委員から、医療・創薬データサイエンスコンソーシアムやオープンイノベーション制度といった新しい取組みについて、イノベーションに対して具体的な到達目標（KGI）を設定して仕組みを作ること、また、それぞれをリンクさせて目標を達成することが大切であり、ターゲットを明確にすることで、取組の価値が上がる旨の発言があった。この発言を受けて、吉澤学長から、医療・創薬データサイエンスコンソーシアムは大学院改革と密接に関連した取組みとなっており、今後はデータ関連で産業界との共創が必要と考えているとの発言があった。

さらに、遠藤委員から、人材の育成について、大学の果たす役割として、将来的に、医学に興味を持っている16歳～18歳の高校生や、人生100年時代になって30代～50代の社会人に対してどのような勉強の場を提供できるのかを大学として検討することが重要ではないか、との発言があった。また、高校生が大学の授業をWebで受講し、大学に入ったら単位として認定する仕組みを作ること、医学に興味を持つモチベーションの高い学生を獲得できる可能性があるのではないか、との発言があった。これらの発言を受けて、吉澤学長から、高

校生の飛び入学については、大学で挫折した場合、現行の制度では高卒となりケアが不足していること、また飛び入学者は基礎研究者として育てるには良いと思っているが、医療の臨床を行う点で難しいと考えていること、またリカレント教育についてはこれからの大学の役割であると考えており、大学院の医歯理工保健学専攻医療管理政策学コース、医療・創薬データサイエンスコンソーシアム及び大学病院経営人材育成プラン等のプログラムを実施している旨の発言があった。

これらの発言を受けて、福田委員から、最近の入学者のレベルについて、昔より劣っているのかどうか、学生を受け入れている大学側の意見を聞きたい、との発言があった。この発言を受けて、田中理事から、医学科の学生の学力については心配ないが、よりモチベーションの高い学生を獲得できるよう高校と大学の接続を強化しているとの回答があった。また、依田理事から、新たに導入した多彩な入学試験制度については、当該制度により入学した学生の成績等をIRシステムを用いて分析して、制度の検証を行っていく旨、また歯学科ではサマースクールを開催して、高校生に授業に参加してもらうという取り組みを行っており、優秀な人材の獲得に向けた取り組みを実施しているとの回答があった。

これらの発言を受けて、瀬下委員から、医学部を志す学生に目的意識を持って入学してもらうため、様々な場へ出向いて授業や説明を行うことが重要との発言があった。

また、瀬下委員から、教員の採用については、大学の特色を考えて戦略的に行っているのか、との質問があった。この発言を受けて、木村特命副学長から、人事委員会にて、領域制を意識しつつ、大学全体の戦略に基づいて人員配置を検討している旨の回答があった。また、吉澤学長から、これまでは退職した教員は同じ研究分野で補充していたが、今後は大学として戦略的に人員配置していくために人事委員会を設置した旨の発言があった。

## 2 2018年度決算（案）について

米澤財務部長から、2018年度決算（案）について、資料3、参考資料1及び参考資料2に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

また、氏家委員及び福田委員から、本学の財務構造について、「外部資金」が収入と支出のいずれにも出てくる点はわかりづらいため、支出については「外部資金」を物件費や人件費として整理した方が良いのではないか、との意見があった。さらに氏家委員から、病院の収入について、経営上何に注力していけば良いかを見極める上で、より細かく収入・支出を分けてはどうか、との意見があった。これらの意見を受けて、米澤財務部長から、来年度以降の資料作成に活かしていく旨の回答があった。

## 3 短日数勤務制度の導入（案）について

村松総務部次長から、短日数勤務制度の導入（案）について、資料4に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

## 4 学長選考会議委員の選考について

吉澤学長から、学長選考会議委員の選考について、資料5に基づき説明があり、山口寿一委員が選出された。

また、学長選考会議議長の瀬下委員から、副議長については、次の学長選考会議で改めて諮りたい旨の発言があった。

## 5 役員賞与の成績率の決定（案）について

吉澤学長から、役員賞与の成績率の決定（案）について審議願いたい旨の提案があり、支給対象の理事及び監事並びに陪席者が退室した後、配付された資料6-1に基づき、吉澤学長から説明があり、審議の結果、理事及び監事の賞与の成績率について原案どおり決定した。

その後、資料6-1の回収があり、退室していた理事及び監事が入室

した。続いて、吉澤学長から、学長の賞与の成績率について審議願いたい旨の提案があり、議事進行を瀬下委員へ依頼した後、吉澤学長が退室し、配付された資料6-2を参考に審議した結果、学長の賞与の成績率について決定した。

## ○ 報告事項

### 1 病院一体化について

田中理事から、病院一体化について、資料7-1及び資料7-2に基づき説明があった。

### 2 2018年度資金運用実績について

米澤財務部長から、2018年度資金運用実績について、資料8-1及び資料8-2に基づき説明があった。

### 3 経営協議会の学外委員からの意見を法人運営の改善に向け審議、活用した例について

木村特命副学長から、経営協議会の学外委員からの意見を法人運営の改善に向け審議、活用した例について、資料9に基づき説明があった。

また、遠藤委員から、デジタル化の検討・計画について、人の動きや事務のオペレーション自体をデジタル化して可視化することで、プロセスを共有化し、オペレーションの最適化を考え、全体の効率を上げることができる、との発言があった。この発言を受けて、吉澤学長から、統合情報機構で業務のIRを進めていきたいとの回答があった。

### 4 本学の土地活用に係る進捗状況について

下田学長戦略企画課長から、本学の土地活用に係る進捗状況について、資料10に基づき説明があった。

5 三井物産株式会社との連携協定締結について

渡邊理事から、三井物産株式会社との連携協定締結について、資料11に基づき説明があった。

(以上)